

チーム内の上下関係や指導方針が集団凝集性・集団効力感に与える影響
～四国六大学野球連盟に所属する大学野球部の比較～

1220529 萩森 彩人

指導教員 前田 和範

研究背景

日本には様々なカテゴリにおいて、野球人口が減少している。本研究では、その一因と考えられるチーム内の上下関係や指導者の指導方針に着目した。過度な上下関係のない高校が強豪校となっている事例などからも、上下関係の厳しさは必ずしもチーム順位には関係しないと考えられる。本研究では、それがチームワークにも影響するかを集団凝集性および集団効力感の観点からも検討していく。これまで、このような上下関係の厳しさの有無とチームワークの関係性を検討した研究は乏しく、今後の野球界の将来を考えてもこの関係を明らかにする必要がある。

研究目的

本研究の目的は、チームにおける集団凝集性、集団効力感、チームの結果に対して、上下関係、指導方法が及ぼす影響を明らかにすることである。その結果、競技者が好きで始めた野球を自由に楽しむことができる環境作りと組織力向上に寄与することを目的とする。

調査・分析方法

四国大学野球連盟一部の六大学に所属する野球部員を対象として、上下関係、指導者との関係、指導方法、集団凝集性、集団効力感の計5つに関する質問紙調査を実施し、それぞれの項目の平均値比較と相関分析を行った。

分析結果

春季順位と上下関係に弱い相関が見られたことから、上下関係の緩さが少なからず順位に関係していることが分かった。また、上下関係と指導法にも弱い相関が見られた。集団凝集性と集団効力感は、指導者との関係性と相関があり、上下関係や指導方法とは相関がなかった。

考察・結論

これらの結果から、上下関係が緩いと後輩が先輩と話す機会が増え、学年を問わず自主性を育む指導が可能になることが示された。そして、それが結果として個人の能力向上に関与していることも考えられる。選手間のコミュニケーションが指導者との意思疎通に繋がり、チーム力の向上に関与していることも示された。集団が同じ方向を向くためには、指導者と選手の信頼関係が重要であることも示された。